



關卷驚奇俠客傳
編三
三

~ 13
3156
10



3156
10

開卷驚奇俠客傳第二集卷之三

東都 曲亭主人編次



第三回 満家計羅轡を遣る 維盈囚を投石小免休

再説大徳寺の沙弥一休の姑磨姫の刑戮の評議を就て義持主の好むを向
まかひ一休答てさし合道新作の譬諭品のうへにお與ふ講義一昔一個の渡難
見あり世尊小出家の功德と向ひ小世尊答ぬあやう出家の慈悲の功德と後五
逆の罪人へともを教化し悪を洗せ垢の善信士女と做せし是如來の本願あり
あざりて五戒の内中殺生第一義を俗家あざりて法律あり人の人を殺らば
その殺らる人を殺してその死を償はるまゝ人の人の財を竊めその盗見を捕殺す
罪は倍悪と懲らし是所云法律への故のその罪の死考の言はれども罪人の



大正真偽正解集

...

甚下迄至の刑罰の場小乎て人の懐かす東西を檢擧ふ須利草の
 由く親ると死の法度と犯す及びて捕てこれを殺さんらひも犯さる前
 人小做まのあふ毛然びを孔子のいふ事訟と聴くと吾猶人のぞり必や訟
 とて佛の慈悲儒の仁義欲する所一理元弘建武の擾乱より今に至りて七十餘年
 殘暴弒逆せらるるごまぐ黨と結びて後さる征一人を殺してその郡縣を奪ふとみる
 賢とて法度小憑るる律令と肩とせむ大道廢れて仁義あるその仁義も廢れて
 孰う天日と親るるあらんや事極れば變易も這時民小父母さるの慈悲廣大阿弥陀の
 如く忠恕惻隱孔子の如く殘暴殺を去る衆生の與小惡と洗ひて教て殺さるる
 世の人通て恥を知りて兼愛して殺さず嗜む暴行を竊盜漸次小絶て國家是より泰平
 ろん蓋一人の御心の千萬人の心さの故小上の教の所民必これと學び上の欲一五
 小所の民も亦これを欲す猶その子の父母の教小憑るる慈と其の親小做ふごとく是則民

父母人君の専教へ譬へ今將軍の衆生の為小阿弥陀のどり既小その職阿弥陀似
 毫も阿弥陀の慈悲さるる木僧小及とせん候を甚麼をさるる木僧小信
 必は利益あり形狀僧小似れざる世小克舜さるるの克舜の服と衣と克
 舜の事と似へ便是克舜と儒者のいひもその理小最憚る言さる阿弥
 陀の慈悲と御心小一切衆生と亦肉さる木僧小優を利益さるる小鳥小慈
 悲心あの人とて慈悲さるる天飛小鳥の名も恥べられも生賢る衆人の愚者
 迂遠とて冷笑小めいん下士道と笑げこれに笑ふ笑されの道とる不足と列御
 寇グの是は抑一年の計元日あり妻小誨る初見小在の饒一かを饒一か仁
 政今より初めめ是元日より節儉小七年中その利ある如く初見より妻小誨
 生涯家法小遵ふと亦何を異ねる昔唐山より丑目の趙無恤の義士豫讓と
 殺さるる趙氏是より盛るる漢の高祖の田横を誅せし七國安く四百餘年の

未ゆよとて。悄悄地命トのけり。話分兩頭介程。隅屋小一郎維盈の夜文姑
 麻姫の臥房小在をさるけり。天明て知く。あを付麻いふと胸と潰し且訝り。主人并
 奴婢們小も。宗と問質ま。毫も照驗ま。疑ひま。憂ひて彼岸
 二つて外に出で。或い吉貝ト小就て去向を考へ。或ハ神社佛圖小詰て。食
 されども飯と欲せ。鵠されども疲と覺ま。心焦燥て在。我身走れ。俱小走。彼岸
 只呆れ。怒りて折々要る。詞敵する。くもあ。姫六年采の。女学同。氣病發
 了。狂乱ま。あまのや。と。か。賀茂河原と。心小。て。屍骸小似る。の
 もる。憶。路。日。消。て。その夜。歌。店。小。還。り。小。け。れ。逆。旅。王。人。ハ。慌。ハ。小。維。盈。其
 く。客。人。ハ。ま。那。噂。の。奴。耳。ま。入。り。の。也。御。京。這。頭。の。風。鼓。耳。と。言。ひ。小。昨。夜。更。蘭
 去。時。候。室。町。の。御。所。小。癖。者。あり。御。寢。所。近。く。潜。入。り。て。敷。ま。な。ん。と。欲。せ。小。御。運。愛
 たく見。出。され。て。上。あ。の。志。ま。は。ま。さ。る。癖。者。ハ。女。子。さ。り。と。矢。庭。小。擗。捕。られ。と。却。件。の

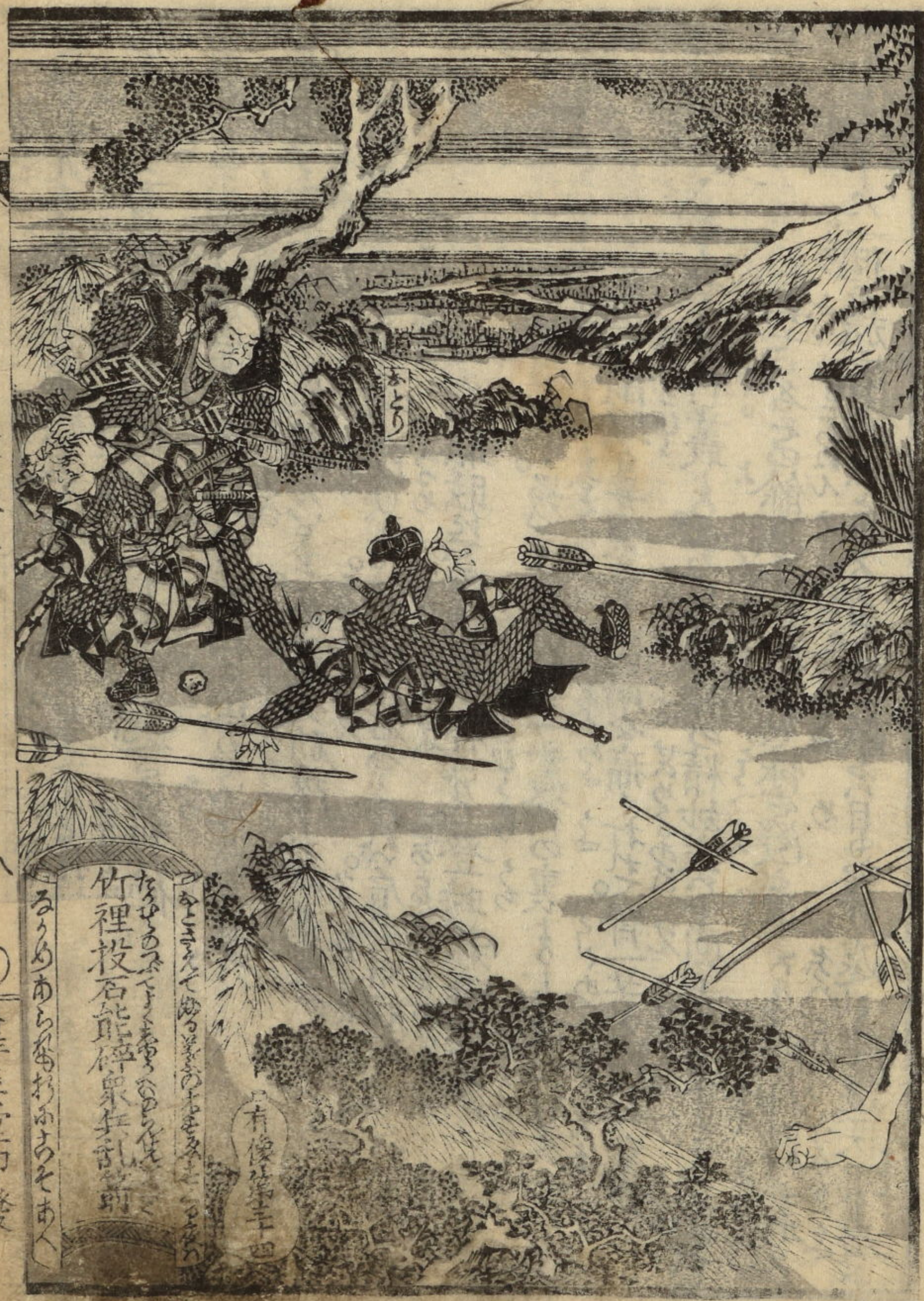
癖者ハ仔細と拷問せられ。小舊里河内。楠殿の餘類也。姑麻姫と喚做る。
 二八可の美女あり。と正可よのめゆ。似るを以疑ふ。日取も。客人ハ。あ
 連る。女中と年の齡さ。吟口合。あ。亦奇。妙。方。さ。で。ひ。の。奴。宿。の。見。ひ。何。里
 へ。とも快立去りて。我々。毎。連。係。の。出。崇。ま。あ。せ。の。ひ。と。維。盈。吐。嗟。と。騒。胸。苦。
 へ。と。推。鎮。めて。氣。色。中。見。さ。び。そ。の。の。さ。る。さ。ら。て。れ。如。我。俱。一。少。女。を。深。窓。に
 下。小。成。長。の。巾。の。め。る。れ。鍼。より。外。持。り。ち。ら。も。る。日。屬。小。似。け。る。夜。深。て。介。無。正
 事。せ。れ。ん。や。疑。ひ。ハ。小。非。除。疑。似。の。惑。ひ。中。官。府。沙。汰。小。及。ぶ。も。そ。の。入。る。を。我
 以。解。く。と。等。ぞ。と。分。明。る。ん。其。頭。小。掛。念。ま。の。ま。の。小。主。人。ハ。強。難。て。心。り。と。あ。ま。の。
 辞。と。奥。へ。退。り。け。る。倦。而。隅。屋。維。盈。躬。て。枕。小。就。れ。も。胸。安。ら。ね。寐。も。睡。れ。む。
 左。さ。る。右。さ。る。思。惟。小。我。姫。上。の。幼。稚。より。文。学。の。旨。と。て。武。藝。亦。疎。く。な。り。ま。せ。り。
 甚。る。れ。一。夜。の。程。小。御。心。猛。可。と。悍。く。り。て。室。町。殿。を。敷。ま。ん。と。彼。那。里。潜。入。り。と。あ。ひ。ん。

頻りに焦燥のうら嘆死つてさう常病ぬ心痛の憊猛可き發りし昨の朝より今まで
 も只姫上の死與に千萬元量の苦勞する故にそありしある些一瘡が非除杖の
 推方でも投ぐと快もあらんやと只管の氣を將太まの病痾小勝へのまげれは只既
 傾けて下睡するのけの介程は維盈の病着空登く瘡をて立出んとて又もさう姫上の御
 際期に今日黄昏時候に賀茂河原とて今より一管領の第邁の轍の
 駒と枯魚の市の訪ふは似て心盡しも奈麻と美の田斐を所為するぬべし層殺は途
 出迎へ緯憊々と訴く听れぬそれまゝ人にも掛せ姫上と刺殺しなりて眞土の死伴
 人共は切てのりさす下呼介さりと肚裏も處分を定りければ茶店が家々云云と飲を
 舒へ茶錢を還して彼岸にわたるがやつさもいそぐ出ても程は黄昏近くるのけり浩
 処の人居る東西走の違ひていぬ夜御所へ潛入りて那女癖者と云條河原で斬るを
 這方を投て来るを必路の程の某の町より一の町まで今親する河原で皆も死に

呼ける罵りて賀茂河投て急なる緯の念劇小維盈裏胸と鎮めもあへど彼
 岸に續けとるうて頻り走る衆人を拜ふら路の程を六七町も前面より居る
 士卒奇めくうち成てま身細轎子の向でもあるは姫上と云はるは足と早めく
 近く隨よりえられ満家士卒るべし雜兵約十四五名鉄又捍棒と引提て前後を
 成るもの路次の準備は蕉火材と膝けて肩もあるもありて先と逐る聲言やうの
 間僅かすか維盈透ささ声とくけて人々雲集時々のその轎子の内より世風聲
 宵える姑麻の姫刀衾ひのき在下の姫の伴當隅屋小一郎維盈と喚るののでけり隔
 つの夜艾歌店中姫上在さるのゆい天明て知て昨も今も往方と索ひまわす
 風聲小より驚馬はよその夜に狼籍言語断緯の趣奇怪れも在下年來傳養
 ひる乳母夫でいへ人と做りて知るこる素是女性のゆられ萬竟優く婿の暴
 死風を數れり魂猛入變りし樹鬱瘡より心乱れ故にそいり在下這管領

家訴稟して恩免と請まうんとし、今朝より猛可心痛の病痾小嬰りと路去お
 志意するも将息不時と移して今又暨る各々這美と美引て後の御沙汰を候人と
 るべ在下今より管領家の死宿所へ推参して恩免と願ひまうべし然とも既ある期
 及び承引かうとあられる主従一期の辞別要時見参せまうべし。この美と允一
 とし、躬て立よと推隔る敬言固の頭人條持媒鳥と喚做を似而非猛者松猴成
 たる眼と瞪ら。承見のて声苛立てる狼籍る白物る女子とも大辟不赦の罪誠
 正斬ると伴當もあれ轎子の綱と外と汝もせんや況恩赦と願ふと御館まうと
 還るも殺戮のを駐めよとて武士あ似けき。法度を知りぬ鳥許の身勝も必
 是支黨也。愁訴は言託せ罪人と奪辱る死奸計るん。這奴が外も隙と現も同惡の
 餘黨躲ひて。這頭四下ゆるめわん兵們先這奴より搦捕りねと呼れ、兼りぬと西名捕
 索る縲の銜と寄せてと維盈の左右より。肱臂捉んと聞たる。縲の勢ひ寛るや竟

維盈倒る逆覚期のくるれ身單人も這衆人殺散と姫上。天奪命なる欲をも
 克む。姫上と刺殺し、まのりて。眞主の死伴と死と決め、勇悍十倍寄ると、依
 撥捕も。勅手と打寄、両はれ、掙死、原來癖者、逃むと、嘯々、雜兵十餘名、鋌又、桿棒を
 閃めり、うち揮て、競蒐、物もせ、維盈、二尺有餘の刀、見ると、引抜て、敵を、擇
 る、殺立、四方、當り、千、變、萬、化、了、得、楠、氏、の、股、肱、に、人、目、覚、い、か、け、戦、ひ、の、初、より
 ち、彼、岸、に、怕、れ、て、近、く、立、よ、と、目、取、も、劇、大、刀、音、眼、眩、胆、落、て、怪、ぶ、も、あ、ら、ぬ、れ、
 慌、惑、ひ、る、暮、初、る、闇、と、討、て、逃、亡、け、り、介、程、に、雜、兵、們、維、盈、一、人、に、殺、散、さ、れ、て、頭、人、媒
 鳥、共、侶、の、細、轎、子、を、器、械、を、登、来、て、敗、北、表、た、り、け、り、快、活、の、肉、の、息、吻、あ、る、維、盈、外、肱、と、
 太、股、より、流、る、鮮、血、の、痛、瘡、を、屈、せ、轎、子、に、掛、る、綱、を、血、刀、り、て、斫、拂、ひ、戸、を、推、開、し、
 さら、れ、あ、る、什、麼、い、く、も、な、し、這、轎、子、の、内、に、是、姑、麻、の、姫、の、あ、ら、ぬ、と、四、五、十、斤、も、あ、ら、ぬ、り、け、り、
 一、箇、の、圓、石、を、け、れ、ば、ち、敬、馬、は、且、呆、れ、て、原、來、敵、に、謀、ら、れ、る、今、千、萬、悔、も、返、ら、ぬ、這



大坂陣第三十四卷三

八
 有像第五十四
 竹裡投石能碎衆兵亂前
 るりゆあらぬおのちあそび人

竹裡投石能碎衆兵亂前

有像第五十四



大坂陣第三十四卷三

有像第五十四

僕們那細轎子と守護し、三條河原まで赴たる中途、狼籍及びびのひる。但
姑麻姫の伴當も、隅屋維盈と吸做まのそのの愁訴のよありと、途で轎子と遮
り留め、夜姑麻姫の狼籍の素乱心の所以、よきて憶を罪を醸せ、在下管領家
へ推参して、這美を自訴を恩免を乞ふらんを求る。權且留めぬを、叩言かま
く口説きを、二の壮伎は僻めて、計策を乞ひ、搦捕んとする。他も亦大に怒り、憶を
聞諍及び、程は浅疾を、負ひのめられ、勢が捕網で、撃惱し、追走し、姑且其
首を、屯する。四下と、涉獵ひ、一件の維盈の、支黨と、ののる。衆共、侶の立
かりの、と、恣報ま、外、皆よく、這美を、ののる。向る、合、ね、脱落を、
と密語け、大家然と、點頭で、現阿頭の方、便妙、然も、勢の、俺們、這那、我、稟
を、繞、一個の、維盈と、ふ、辟易、あつと、せ、え、る、罪、免、る、処、を、と、云、云、と、彩、を、附、て、方、僅
阿頭の、宣、ま、稟、ま、越、度、を、へ、皆、あ、る、を、の、の、れ、て、媒、鳥、の、髯、撥、拵、て、然、が、退、ら

人、准、備、せ、せ、快、く、立、ち、の、の、れ、が、雜、兵、們、の、漸、破、ら、れ、る、網、を、結、び、轎、子、を、ら、被、て、拾、起、し、
あり、或、の、燧、を、鑽、焦、火、と、点、て、先、立、も、あ、の、の、餘、の、棄、る、器、械、を、拾、抗、け、列、を、敷、正、し、
條、持、媒、鳥、共、侶、を、金、倉、を、隱、を、陣、笠、の、黒、糸、折、合、號、袖、端、を、破、れ、て、疼、痛、は、浮、腫
も、満、家、の、第、を、投、て、い、そ、だ、け、り、案、下、某、生、再、説、那、折、維、盈、を、肩、小、截、で、走、る、去、る、逆、旅、は、武
士の、島、夜、紛、れ、て、逸、快、く、三、條、橋、を、ち、渡、し、日、の、圓、の、く、ふ、赴、く、と、既、ふ、て、幾、町、を、人、家
離、れ、る、樹、植、の、間、の、禰、小、佛、堂、あ、り、木、像、の、觀、世、音、蟬、子、の、巢、を、絨、り、て、臺、座、の
上、お、立、の、り、這、堂、頹、破、り、て、守、り、人、絶、て、る、り、く、是、究、竟、と、維、盈、を、下、壇、に、卸、し、程、小
下、弦、の、月、さ、し、升、玉、を、影、隈、も、明、る、け、り、登、時、件、の、旅、客、の、懷、探、り、と、邊、小、定、心、丹、を、會
出、し、左、手、を、維、盈、と、抱、え、起、し、固、く、因、る、齒、を、推、甘、け、茶、を、推、入、れ、て、咽、活、を、と、ま、介、抱、る、雨
る、所、れ、が、維、盈、母、を、な、く、息、出、て、眼、を、閉、じ、て、左、右、を、ふ、り、認、ら、ぬ、社、伎、小、勲、ら、れ、る、を、
ゆ、の、且、訝、り、且、歎、び、て、抑、和、殿、何、里、の、人、を、我、身、と、敵、の、を、渡、さ、を、扶、助、て、這、里、俱、也

情の程を有かけし所以の事名告せしめられたる伴の杜枝の落る涙を振額して
 其身の楠譜第の忠臣隅屋小一郎橋維盛さまでと返されて維盛の疑ひを
 ぞ點頭て回して我をその敷るねども楠氏の老黨隅屋維盛を以てとふ杜枝
 堪難けん泣んとう声も吞て然我身の實の親るかの家その大人我身三歳の比
 うとよ生涯不通の約束也大和の宇多の石倉氏へ養嗣命さすはる是復市を
 いそよと名生る敬馬維盛の歎けし由も八は増き鮮血塗れ深瘻の苦痛を忘るま
 てとあり。さしてのころ。もつて。うらみかこ
 でおもひを合せて原來和郎の復市より一救我見とてとるおほききと有敷系は残る乳貌何里
 中母の肖りけりその訝し今宵の再會絶て久し和郎親子今大和に在りて伊
 勢の夏と氣おと戦吹く風の便りおぼゆる。この目とてかたは這身の果の京師と死天の旅衣
 まる苦死胸切の這里を環りあんと嘆息の中此幸さる。やよふと我危窮とて毒も
 知りて資けるその縁由報よ快々と回へ復市臉を拭きて言長とも稟まて。苦くは

聞き。おれが。まうふ。うさへ
 听の兒養父お推方されて伊勢の壹志の身を氣城へ移り住る六歳の春十二年の昔
 ころ。這年の秋養ひの奶々身故りあひく。方方もさ哀かり。を。養々の折々尉然と勿
 泣そ奶々あせむとせ。その明の春後妻とて毒も取ありあひけり。多は。後の奶々お推子
 ありて五歳よりぬるも亦男見さのれ。そ。後我弟よせられて俱お字子とあめり。萬夏
 初の奶々お似を折々觸り堪。え。も。あ。知。五。陰。と。陽。特。き。お。見。我。
 慈。と。八。九。歳。も。も。習。武。藝。を。教。て。蛭。蛉。さ。り。の。秘。し。と。毫。も。告。れ。ね。は。実。の
 親。と。思。ひ。後。の。奶。々。其。頭。の。よ。と。毒。も。父。を。さ。し。知。り。け。ん。意。不。慍。ぬ。の。折。折。の。と。切。ぬ
 く。罵。り。て。和。郎。の。大。人。の。子。ま。あ。は。素。生。の。河。内。の。楠。浪。人。隅。屋。小。一。郎。維。盛。と。喚。做。ま。者。の
 獨。子。さ。り。七。年。之。の。比。蜂。六。刀。祢。が。生。涯。不。通。の。約。束。也。後。養。會。命。の。あ。ひ。る。そ。と。這。家
 中。生。れ。ど。家。子。態。を。傷。痛。れ。二。郎。も。大。人。の。理。ある。我。が。與。血。分。さ。り。子。と
 として。養。ら。ふ。あ。ね。萬。夏。ま。就。て。大。人。の。恥。心。太。く。親。の。よ。と。听。を。と。叱。れ。初。の

非と流し。後の疑ひ度更なる。然もあつて思ふ不承下り。多々同ひ。父を
 遂に秘し難て。這身の素生恁々と。親身の孤忠の絆の趣姑麻。姫上と養育は與ふ
 這身を遠離て異姓の人の子に做される。情由と初て告られし。世に端を身を知る。
 涙の河内より。心祈神風の伊勢も高比山のあれ。深に歎け。思ひて是の
 二親。あつては。隨意なる。世より不承。幾の年と過。た去歳。見遊伴
 より。輕卒隊。召出され。甘木甲の。属れて。石倉復市。安次と喚れり。そ。又。奶々の醋く
 やあ。凡。屢。安。多。ふ。説。と。れ。れ。と。の。言。ま。り。一。飲。食。を。も。亦。兒。と。漸。々。疎。果。て。二。郎。家。と
 嗣。せ。と。必。氣。色。の。見。れ。る。恁。情。由。に。へ。這。身。あ。つ。て。一。家。兒。一。日。も。口。舌。絶。々。然。然。の
 竊。身。退。死。て。二。親。達。の。情。願。の。隨。二。郎。を。讓。ん。と。既。深。念。と。れ。れ。も。仙。の。類。音。の
 親。の。答。も。考。も。盡。さ。る。卑。職。と。も。君。の。禄。と。食。さ。る。甚。麼。を。ぞ。寸。功。も。さ。く。已。隨。辭。一
 稟。と。ぞ。と。影。と。隱。と。づ。只。是。不。義。と。不。忠。之。折。を。等。と。あ。つ。と。と。思。ひ。つ。あ。つ。程。

這月の初旬公役の伴小立る途。憶必死の厄難あり。脱れて浪華の浦。小来の
 けり。登時見あり。御高。這身。死地。小入。人。食。活。り。と。甘。あ。り。小。存。命。ゆ。り。甦。生。る。似
 たり。這折。を。七。身。退。か。親。の。心。の。安。あ。る。君。不。忠。の。外。も。あ。つ。と。這。里。も。河。内。に。赴。き
 いく。實。の。二。親。達。の。對。面。と。し。て。報。稟。一。却。介。後。不。進。退。を。定。ん。の。と。尋。思。ひ。た。る。
 折。く。二。個。の。行。伴。あ。る。も。捨。か。さ。り。あ。れ。相。俱。と。河。内。へ。赴。き。豫。定。する。八。九。村。を。諸。村。と
 奶。々。小。再。會。し。我。う。又。養。家。の。の。詳。は。告。稟。せ。た。奶。々。の。歡。び。大。々。と。泣。け。り。泣。け。り。笑。も
 きて。大。人。の。日。姫。上。の。高。野。詣。の。見。伴。小。立。り。日。數。を。歷。さ。る。あ。け。小。ま。と。遠。く。せ。ぬ。の
 ぬ。姫。上。の。御。所。望。ま。都。見。物。を。見。ん。と。京。や。立。り。あ。ひ。ん。と。猜。し。も。奈。せん。二。夜。廿
 夢。寐。の。す。れ。い。と。心。を。横。に。折。り。思。ひ。も。る。く。你。の。來。ぬ。を。幸。な。る。い。と。京。ま。れ。高。野。野
 ま。れ。快。赴。き。御。安。否。と。訪。ま。り。あ。つ。と。我。胸。に。稍。安。ら。る。と。渡。莫。日。數。の。過。れ。高。野。野
 在。ま。つ。京。へ。來。る。あ。つ。と。の。さ。ら。び。と。あ。つ。と。正。院。實。の。父。子。も。面。認。ら。れ。不。便。

出を征前と防難て既の危窮の折るは吐嗟と駭く身の單之う笠前を持る勢向
 新と肩て火の迫るを抱て淵に臨む謀の勇戦死に功を要すをあれ其頭
 る竹藪の身を潜る豫自得の礫を飛して近着く敵と打仆甘んじて我大人の必
 死を極むをわすれん是切てのるる心の事姫上は何の事ありやと問ひ歎
 過去来と今の憂患と云云と報ると漏る事とけん維盈の俯無る頭を拾て憶をも
 含笑れつらち領て通微妙に和郎が拵に那轎子と姫上在るを満家の計畧
 ぞ支當黒あつて四引出して擗捕せんと與るに我の然る事あると思ふに姫上今采女
 動は是御櫓影氣は変燈を御心乱と故ると猜ふに管領家へ自訴あり恩
 赦とて京と尋思とて歌店と出た猛可ま心痛劇きて路去あま期は後れたる
 任れ河原へ赴て他多なむ姫上と刺殺すを母を眞土の女伴せけれと思ひ決め
 急ぐ途で那轎子と遇ひつと告推留めて云云と陪話ると故言固の頭人かな疑

今擗捕んとつるふら巳と云ふ苦戦と初は這奴們と殺散し網轎子とら啓
 してそれ姫上とら謀とれけと躊躇ふ程に推捕稠る新隊の雜兵近く找
 まて射撃る衆前と垂毒時へ防たられも這身鐵石をられ終末は深瘡小倒
 して喚活ら折まへ我中あを在らんかよと憶ふに姫上今も存命で因圓の
 中在るを面目を我不信心の目姫上夜に深に潜るを夢中知天明て
 よらち駭然と死往方と索難世の人の噂ふらと囚れぬ縁の趣稍知り做事
 毎不廻轉ふ去る由も天欽命るる忠義の與小遠離て年と麻糸ける獨子の補助小よ
 して仇の多小捕れん首級と命留て終末西不入の女今宵の月と日の圓の觀音堂と死
 所と死世の後佛廿廿と憑む復市和郎の志をくく養家の口舌の身は
 きて養父母の意小慍ふら不孝小あは義小庶ら死ねる大厄多ふは
 かへとと豈其不忠ふら必奇死けの再會垂来ても絶ぬ血脈の天縁徳

あて託孤の命あり不幸なく功を全く身は乱槍の與ふ射れて屍を野徑に塵
むらへも天又その子に復し與てよく忠義を嗣とあつむ惜多その知自于て足る
る所あり是は首四郎の比れその終焉はよく相似てその趣同かま且その忠信稔るる萬
萬は是と館英直較れば智慧の維盈英直不及武勇の維盈英直勝れり宇宮の回
往とく何の処より照對するんや野史みづる批と云維盈は是真勇英直は是真智智
勇との差ありといへも孤忠苦即甲乙する嗚呼忠義哉噫嘻忠義俱中世奇士といへ
自評云姑摩姫河内在り一時劍俠飛の術とてぬまひ京師赴て足利義持を
敷きまて言と高野山詣假託て維盈をむ京師は旅宿一夜艾の獨室町を營中
入るふ及びて事發覺れて身は捕捉れ維盈を殺す至れり是未て自作せる辭すあ
まと看官批まるもよかるべ豈あつんや然るや御高姑摩姫を師の別れ誠を京且
劍書と燔れて當夜宿所還るふ及びて飛の術衰へて初小似ざるよと知れりまればも

今茲の春より御受禪の風聲耳われ餘怒再煽之堪んたる不勝々々又義持を
敷きまて言と既小仙嬢の誠あり是と破れ違誠の罪あり破らんと欲され餘怒復
ま處る且劍俠の素是一流の仙術をれも行ふ所真法小わ姑摩姫を師に
送誠よとて曉得るより三お那北山の復讐言と世不知れれば足れりとせは傳る故小
重て京師に到るふ及びて復飛の術を用其先考の墓を禱て成敗を天不儘に
たりこれを維盈告さるる他死地を置ん與小わ生ると死に諫られて事の做るを
知れん女侠の心君父の為小素より一死と辞せば縦憐愍の真情ありともその伴
當の安危存亡と茲小わ追送あえんや未然小這義を諭まひ前果仙嬢の
四言四句小亮々る作者の用意と知る小足らん歎
按まる小石と投てよく物小中るのむり唐山小四名あり水滸傳るは張清ハ世の人
これを知らるる張清の各官和送事小張清のこの上小ひん不うこうそかともその
投石の作辭の作者の寓意也這宅明の兵門の彭興祖弟彭某小石と袖中

昨日の歌店へてん秋京師の町を徘徊して暮て那里へ宿ん秋と云難々惘然と語立程
 天へ明て茂林と離る鴉の聲耳ふら驚鳥ら遠く父の新墓伏拜を伏あまら立鳥の翅
 ま乾ぬ鴨河原三條橋の昨夕の影護さる路易て五條のまを赴ける小程小管
 領島山尾張守満家の家臣條持媒鳥們は注進より姑麻姫の支黨のなつり
 上を知られれば次の日管中人出仕て義持公小京を尋ね臣御説小従ひまると那計
 畧の趣の家僕們のあつてとく試ひて姑麻姫の荷擔する悪黨のいむ
 唯隅屋其甲と云喚做する伴當二名あり那轎子と途不渡りて愁訴あつと京
 せかとも家僕們これを聴きて追走しなれば小後の轎子に障りのあつた
 と慥小夢えい之遮莫那姑麻姫が父楠正元を襲ふ京師に潜登りて鹿苑院殿前と
 狙ひなりし小事立地不發覺れて誅せられ懲むる小女兒とて今番の重罪赦
 されぬのあん又格別御仁政を赦免の御沙汰ゆを恐れず猜しまるふ

御京南帝と御抗言約のまゝあるぬもあれが那方さるの憤りと世と長閑かふ
 治んとその賢慮ある人尚そのまひの愚計を免むひんぞと小義持ら微笑く現
 猜されるよもの又那少女が狼籍に狂乱鬼病の故をんふれこれ且一休の
 云云と論ト稟せしやもあれ恩免の沙汰及び免るるも寔の狂病を虎と放ち
 山へ還る後患ありと云ふ計畧の甚麻なるを問れて満家さいと応けけり
 膝と打ちて尿安四下とえたる小近習只迫後方小ゆるて左右小人のありし折を
 と声を低めて今姑麻姫を赦免して河内へ還るゆも遠く結果して後の患城
 除く免筭策の餘の免小い那女子を恩赦の折その忠孝を賞ませぬて金千両を
 賜ふ。姑麻姫居るの錢財をば極武と云ふも婦人の情を忽然小心驕る夜
 食の快樂と及べ。且河内へ山賊より件の金と奪ん夜柵小打入はとある
 那家從類稀るれば姑麻姫みづる衆賊小當りて命を其里不殞来し君他を赦

上あち つどい まり さいぎ うのみいへちのちをまひ。こまひめ あちめ
宅も送るく聚會し。よりと示しと再議の上満家の謀立地ゆれて姑麻姫の赦免せ
られ楠正直ち執事居と免されて次の日出仕し。拜謁は折義持即便満家と姑麻
姫の罪過の顛末并他と赦免の就て楠正直本貫河内の石川也。莊園五百
貫と賜ふ。姑麻姫と俱と那地赴居宅と八九の邊邊造りて。悄悄地姑麻姫の
動靜と視他が異謀あると知る。遊佐河内守就盛と謀合して速に注進せり。
その他の嚴命恁々と詳は為達して君恩かくの如くれば。和殿萬支小しく大功と立
り。功のふ舊領と返し。仰らば尊意のゆれば。正直謹て三言乘地。直宗と
也。満家然とと點頭て那姑麻姫の後日の比河内へ還るるといふ。和殿速に準備と
宅眷と推し姑麻姫と共侶は首途と。又那少女の伴當隅屋甲と飲喚做せり。一
両名あつとゆえ。今も這地の難れとん飲よと。每坊の故老不徇示し。門と示さる。姑
麻姫と諫て返し遣走。這美もあらゆれば。と取詳し示さる。正直飲び意外小出て

えん 身のたままは 身暇と賜りて。そのく退り出のけ介程。這日より。姑麻姫の伴當と京の坊
毎小索られ。石倉復市が宿投る。那五條客店へ。締の趣ゆえ。這時復市
安次へ世の風聲と榜えを晝の那這と徘徊せ。程那案内者も他が鞋瘡稍愈て
尋束ぬふ遇ひ。折る姑麻姫と赦免の。并伴當隅屋甲と召出。主諫と
河内へ還る。とある。正直下知状と巷毎懸られ。復市を。これを。且飲ひ且
疑ひて吐裏ふ。今故も。姫上の罪と免されぬ。是か。我身伊勢不
在り。折人の噂ゆ。とあり。那楠正直主の正俊卿の三男也。親共侶の南朝の叛死
ま。つり。武家の仕へ。栄利を。人。非除那身の姫上の叔父公と。と。解る。かり
る。那主の計策也。姫上の伴當と。囚引寄せ。捕て。俱誅せん。與る。と。いひ。つ。ま
他と。俱して五條の歌店へ。還りて。ゆ。姑麻姫と。赦免の。并。正直も。共侶。河内の
八九。赴。今。番。新。恩。の。莊。園。不。移。住。む。と。い。ふ。ま。で。詳。し。ゆ。え。復。市。竊。ひ。飲。び。て。

原来寓言る所不。縦計畧るれを。狐疑を名告り恐むあつ怯し主と番のふ
 似ら然るに我身いとも君父の與恥辱を左も右も姫上と安危を俱おせられ
 と處分既決りければ逆旅主人を招かせて。咱們の御高河内より姑麻姫上を俱しと東
 たる隅屋復一郎安次并は奴隸を作とりの楠殿へあつ。許稟をか。とある主人の
 一議の及ぶを。御沙汰あつ折る。明日より漫行をせ。徐小若せ。宜く計ひえ。
 と答て。馳て遠く。外面投て出けり。案下某生再説室町の管中。楠正直再勤出
 仕の日罪人楠姑麻姫と獄舎より出と赦免あり將軍持。異日子尙さんと那身と
 正直預ける。正直これを奉りて。且姑麻姫と宿所伴に。宿所を管けて。勤り。正直と
 姑麻姫と。八年來美我絶の叔父姪を。這時初て對面。然る正直の宅眷といへ。母
 送介意。とち解るとも。然る見參の日。さう。正直即便姑麻姫を浴湯
 結髪を促し。準備の礼服。更を轎子。うち乗し。俱と管中。赴入とせ。折小

のち。姪女の伴當隅屋復一郎安次并は奴隸を作と吸做まの。五條の飯屋在りと
 せ。今朝召よ。耳房。置ら。伴當。這方より。隸不足るれ。他。們。伴小
 立んと。い。這。交。と。ある。か。と。不。姑。麻。姫。眉。と。頻。早。め。我。伴。當。維。盈。多。不。復。一
 安次と名告り。是。奈。る。あ。う。せ。也。その。復。市。ハ。維。盈。獨。子。也。外。は。時。石。倉。と。中。小。生
 涯。不。通。の。約。束。也。を。養。嗣。小。令。と。と。豫。て。ゆ。く。の。復。市。が。這。里。不。來。と。ん。該。ハ
 る。是。の。と。も。我。得。て。來。る。奴。隸。ハ。彼。岸。二。や。り。け。不。代。り。の。他。が。來。身。也。最。計。を
 る。是。の。と。も。任。と。詰。り。回。ん。の。ま。が。也。仰。あ。る。ゆ。ゆ。の。と。も。答。て。あ。の。宅。と。は。肚。裏。出
 る。不。疑。不。胸。安。く。せ。以。け。り。介。程。不。直。正。直。の。比。及。不。姑。麻。姫。と。伴。以。て。室。所。柳。堂
 へ。赴。く。程。不。復。市。ハ。他。と。俱。す。主。の。轎。子。の。後。不。跟。て。正。直。が。伴。當。們。と。齊。一。柳。堂。を。ま。ま
 せ。り。の。日。出。仕。の。毎。日。三。管。領。四。職。七。頭。の。人。々。と。首。と。と。熊。谷。滿。實。宮。滿。實。里。門。を。ま
 ま。坐。席。と。正。威。儀。と。整。正。廳。並。羅。列。す。當。下。楠。正。直。の。姑。麻。姫。と。伴。當。們。

てな。程の姑且と義持公管領満家と先立。小倉従。大乃と持と出て上壇の看玉
近習們翠簾と捲揚ると暗誦の大家額つげり。時満家仰を受先姑麻姫を
召近着て室町殿と拜せしむ。あれも姑麻姫の長揖と敢拜せ。開方と程満
家仰を傳てり。楠姑麻姫美れ。汝が父楠正元。往る應永五年の比先大君鹿死相
国と犯せしむと欲せし。縛立地。小發覺れて誅せられし。知る欲先度。懲り。今番
狼籍の罪実。萬死に當り。あつれども。做し所。素是。狂疾鬼病の故也。を氣心
あつる。寛解。直。あつれども。左。右。も。あつれども。欲。所。忠。孝。は。棟。梁。も。あつる。
その身。女。流。の。ゆ。り。れ。格。外。の。死。仁。慈。と。し。て。の。罪。惡。と。糾。ま。及。れ。志。即。禁。獄。と。釋。免。と。故
郷へ歸し。遣。さ。る。世。小。有。る。因。恩。と。し。て。頭。不。載。と。後。々。志。と。と。叔。父。正。直。不。従。不。く。
勉。て。良。善。の。婦。人。と。あ。る。折。々。嵯。峨。の。太。上。天。皇。後。龜。正。の。由。と。聞。食。及。路。費。の。與。一。五。
金。と。下。さ。る。仰。合。さ。れ。れ。仙。院。御。資。料。の。内。と。數。の。ぞ。賜。ふ。る。自。足。借。祖。

せん。先の忠義と身は孤獨と憐れ。睿慮の係る。快拜受て。退る。厳小言示
其。金。司。の。甲。乙。丙。丁。五。名。千。兩。箱。を。其。業。載。と。吊。り。と。姑。麻。姫。小。邊。與。け。る。あ。れ。も。姑。麻。姫。の。
飲。む。る。氣。色。も。満。家。と。對。して。御。誂。兼。り。の。妻。過。世。の。方。か。雌。伏。し。と。み。つ。る。
量。ら。ば。蝗。蝦。の。芥。と。し。て。隆。車。と。對。し。崇。觀。面。助。り。か。死。命。と。ん。許。さ。る。幸。ひ。の。飲。
抑。這。身。の。不。幸。も。飲。是。飲。非。飲。思。は。れ。辨。か。の。昔。異。邦。漢。の。高。祖。の。刺。徹。と。誅。せ。ば。
ま。寛。仁。の。君。と。い。は。れ。る。今。番。の。赦。免。も。跡。が。狗。の。走。と。吠。る。類。あ。ら。ん。飲。毒。が。あ。ら。ん。犬。の。狗。の。
跡。と。吠。る。外。口。と。と。稟。さ。ば。傷。痛。も。下。況。や。あ。ら。ん。小。倉。の。太。上。天。皇。と。這。千。金。と。賜。
る。不。指。腰。る。武。家。と。痛。心。と。言。依。さ。る。有。か。ら。ん。死。御。因。願。ふ。今。後。々。ま。御。
誓。約。差。ま。と。持。明。院。殿。大。覺。寺。殿。送。代。小。天。日。嗣。と。知。召。ま。の。る。病。者。看。養。
果。て。罪。の。ま。事。要。せ。ば。室。町。殿。の。御。武。德。と。辱。く。と。い。は。れ。る。と。あ。れ。の。よ。し。斟。酌。を。せ。ば。
あ。ら。ん。願。し。て。は。れ。る。言。來。る。辨。論。と。大。家。呆。れ。て。醉。る。如。く。現。理。の。義。女。魂。

侍の和漢の再罪の汚名を洗はれぬ。侍の満家の安んずる。侍の且姑麻の姫の浪か。又正直の言中七の初め。今日午後及ぶもの。姑麻の相俱しく河内へ首途致す。雑兵居る道中由影を論那地。到る。豫も仰付られど。いさ。回る。屬て那狂病と看と。功より恩賞。快々退り玉いと詞せり。火速の修達正直推辞む。氣色を言果て姑麻の姫。俱しく宿所退る折件。金復市に施す。他より馳らる。身の宿所還り来れ。聚令る差遣の雑兵略戎衣を百四五十名中着并。姑麻の姫の伴當小荷駄を合。二百餘名とせ。猛可の起り。只眉子火のつ。上下を復し。死紛へ。わづら。東西より收めて下。小京師と。後。今宵の二重。其里宿。定めて。頻り。路次を。這。看官の精。情由。原。満家が。姑麻の姫と。害。地。智計。旋。義持。王。説。是。所以。

満家が。大。山。義。深。并。父。基。國。時。河内へ推寄せ。和。田。楠。を。攻。ぬ。その。年。と。麻。方。程。南。朝。元。中。の。年。至。和。田。正。武。病。死。正。勝。翼。を。喪。ひ。孤。城。守。る。勢。弱。千。劍。破。と。没。落。る。時。將。軍。足。利。義。満。の。軍。功。賞。と。河内。と。基。國。賜。り。加。恩。の。地。と。做。せ。身。の。京。師。在。り。將。佐。就。成。盛。茂。遣。と。守。護。代。と。今。至。れ。り。姑。麻。の。姫。擲。捕。れ。て。詮。説。の。折。満。家。肚。裏。の。事。那。姑。麻。の。姫。女。流。不。似。け。る。心。烈。武。勇。の。勁。敵。の。武。断。疎。沙。弥。一。休。の。法。談。助。言。容。れ。て。赦。遇。せ。河内。還。り。我。封。内。の。患。ひ。上。の。怨。怒。の。冷。き。回。誅。と。後。小。京。師。の。言。示。と。首。と。敷。せ。と。欲。せ。姑。麻。の。姫。を。仙。骨。の。且。活。人。草。と。服。る。神。效。の。事。の。刃。或。は。折。れ。或。は。曲。り。那。身。を。成。す。克。ん。ば。然。る。絞。殺。せ。と。二。三。回。絞。り。布。ま。れ。索。ま。れ。皆。断。離。て。殺。せ。満。家。敬。馬。直。怪。と。又。鴆。毒。と。用。ひ。し。それ。を。驗。る。り。原。来。那。奴。の。神。佛。の。冥。助。を。盛。久。景。清。は。

侍るん食と林めて乾枯せとそ日よりと一トの水不與さければ姑麻姫の自
若とて饑渴の氣色さるけり是より満家又術と易て姑麻姫の支黨と擯捕せんと
欲せしふ計亦當を既赦免の沙決定して誰何とせん術をけり更義持主未薦
め那千金と餌食ホとの姑麻姫の心蕩且楠正直俱河内遣て他厭
勝ホ志をれと計較るを右の如然又義持主も劍和頼朝と師表ホ志兵實仁大度の
君子あるなと一休の諷諫は如忌暴慢の熱腸と残り多く洗れて心裏恥しけり
姑麻姫と赦し南朝の殘將們を徳と感後と蕩心して叛くを承へ然一個賊
婦と赦し億兆の人の心と攪る妙計ととめり然と快くねば又満家が京一薦
る計と信容れて候のぞいひる當時の人情想像も同話休題介程の姑麻
姫の夜逆旅の歌舎で那隅屋復一郎安次と名告との伴當と召近着て初
對面してけりホも認ぬ社依之誣し限り言れ向す欲し思ども側叔人正

直の宅着あが黙止る復市も亦父の我うさま任々と報復のめり一六只恙る
く歸御及び終つと舒きとて言語寡く退けり登時姑麻姫も那復一と維
盈市の縫殿中も肖る処あり且維盈子の名復市他が名も復一と別人あるべ
何麻の市中て我窮阨も知て尋來て今番の伴立ホけ宣定ま奇り候るふ
維盈があひ多し捕れて害され然然去夜敷の失望と秘と歌店と送一置
外と痛く恨も自殺をす然胸安らぬとある不問突人のあり向れ現靴を
隔て癢を搔く小似さけり大凡の會も別るも前知あるもの今向きとも八九か
ら少知る暇いふもあんと空綱ホ多くとも只生憎は維盈の心の心かて八九の
宿所へ歸着ま便宜の折をゆざり一六報られせむ空閑は旅宿を過しけり
話分両頭春秋の刻も過せむ及ぶるは彼岸二の隅屋維盈
篠持媒鳥と捕稠られて已とるを難兵の十と防戦ひ折戦慄れ慌惑して

逃走と一里あつた。その夜は洛外客店小曉せよ。竟尔京師に足と駐せ。追隊のかりん秋と思へいと。影護さす書六樹の向山の蔭に立ち。夜と目と路。次と急ぎて八九の莊院にかり来て。悄悄地は報稟を死ありとのひ。縫殿の敬馬は且訝りて。奥へ召入れて。對面を登時彼岸二の日の獨姑麻呂姫が室町家へ夜敷をして。擗捕らまうとの事。顛末介後隅屋維盈の途小管領の士卒小捕稠らまう。必死の血戦小及び。ゆもあつてもせ。隨に詞せり。耳は報る。痛くは姫上を網。轎子小乗せられて。既小河原へ赴たぬ程を敷されひけ。その折は隅屋主も居。痛瘡を肩あひ。助くる命はあま可已辛しく。虎の腮と脱れ。一日を多く。這大変と告まう所と。思ふ所小穴網にかりひぬ。胸先寒り。縫殿のあ。什麼いふせん。其小を死と。涙忽地雨のど。拭ひあま伏流も。絶没るま。泣た。ち。登ふ。ひ。せ。六。姫上日屬のあ。行状。然る勇悍。は。奉動。といふ。と。做

されん。縦そのあ。り。と。も。然。す。で。あ。ぬ。と。彼。岸。二。が。行。ぢ。ぢ。見。る。と。小。あ。あ。ん。人。言。で。惑。ふ。た。り。市。小。虎。と。致。も。あ。ん。の。常。言。も。あ。り。と。鉄。火。謀。の。要。る。た。と。あ。べ。幸。ひ。し。て。復。市。と。往。日。京。師。遣。一。れ。左。ま。れ。右。ま。れ。信。わ。ん。便。り。を。あ。ふ。優。工。と。あ。う。と。尋。思。う。と。彼。岸。二。口。を。禁。めて。一。家。見。る。奴。婢。は。知。甘。深。く。秘。して。後。の。音。耗。を。程。坊。間。の。風。聲。漸。次。ま。づ。え。て。姑。麻。呂。姫。の。夜。敷。禁。獄。に。あ。り。又。維。盈。の。あ。り。も。も。彼。岸。二。が。報。さ。す。と。這。那。吻。合。さ。す。と。ま。る。縫。殿。を。これ。さ。う。ち。听。て。原。來。虚。談。る。所。の。死。と。思。へ。いと。哀。傷。悲。泣。の。方。方。と。あ。る。れ。ど。了。得。小。隅。屋。維。盈。の。妻。も。あ。り。と。宗。々。れ。雄。胆。あ。り。け。れ。獨。執。思。惟。の。小。姫。上。并。小。我。所。天。の。横。死。千。回。百。十。回。ち。數。は。て。も。返。り。か。ら。り。纏。已。小。分。明。な。れ。這。里。も。捕。兵。を。向。さ。す。零。落。たり。と。も。楠。氏。の。迹。之。救。心。逃。迷。ふ。と。嘲。う。と。せ。不。送。ま。ん。と。の。期。あ。及。び。家。小。火。と。放。け。潔。く。自。害。し。て。煙。と。做。り。て。死。天。の。旅。先。あ。り。の。姫。上。と。良。人。小。起。も。着。ん。の。も。嗚。呼。介。

り。胸の中ちゆうのうちの中ちゆうのうちの中ちゆうのうちをを覚かく期きととあありり。一ひとのひと倒たふれたふるるもも謀まがむむ不ふたた折しのし便べん宜ぎととああららるる。
 日復市ひふくいちがが俱ぐととああららるる。美みしし少せう女にょ也や。故こ郷きやうをを向むかへへ。伊い勢せとと答こたへへ。名なをを回まわすす。垣かき衣ぎととああららるる。然しかしし我われ見み復ふく市いちがが結むす影かげのの妻つまととああららるる。俱ぐ小せう養やう家かとと走はしりり。ああららるる。切せてて他たをを去さるる。
 這世このよ留とどめめてて。姫ひめ上うへ并ならばば我われ們ら夫つま婦めかけのの苦く提だいとと吊つりせせ。ああららるる。色いろももななげげ却かえりり。
 垣かき衣ぎととああららるる。復ふく市いちががままごごかかららああららるる。徒た然ぜんととああららるる。這この里こゝよりより程ほど近ちかくく。
 如に意い宝ほう珠しゆ院いんととのの女にょ僧そう道だう場じやうのの我われ姫ひめ上うへのの香かう華け院いん也や。先せん住ぢゆうのの姫ひめ上うへのの伯はく母ぼ脚けつ弄りやう也や。
 今いまのの住ぢゆう持ぢのの御ご弟てい子し也や。智ち圓えん禪ぜん尼にとと喚よべべるる。近ちか曾そう縫ぬい刺しととああららるる。
 比ひ丘か尼にのの在あららるる。一ひとととああららるる。央ちゆう鍼しん毒どくのの欲よくととああららるる。物もの縫ぬいひひのの復ふく市いちががかかららああららるる。那あの御ご寺じへへ紹せう介けいととああららるる。母はは那あの里りととああららるる。事ことももああららるる。相あ譚たんひひけけるる。畢ひ竟けい縫ぬい刺しととああららるる。
 垣かき衣ぎととああららるる。宝ほう珠しゆ院いん遣けんととああららるる。後のちのの話わ説せ甚しん麻ま名な也や。其その又また次つぎのの巻まき鮮あららるる。鮮あららるる。解あららるる。聽きねねかかりり。
 開ひら巻まき敬けい馬ば奇き俠ぎやく客かく傳でん第だい三さん集しゆ卷まき之の三さん終しゆう



